

平成28年度 入学試験問題（第二回）

国語

注意事項

- ※ 問題は18ページまであります。
- ※ 試験時間は50分です。
- ※ 開始の合図があるまで開かないこと。
- ※ 答えは全て解答用紙に書くこと。
- ※ 句読点やカギカッコは一字と数えること。
- ※ ページが抜けていたり、印刷が見えにくかったりした場合には、手を挙げて知らせること。

一
次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、本文中の表記は原文のままにしてあります。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字と数えること。

第四章で僕は、0と1の例を挙げながら、メディアはわかりやすさを目指すと書いた。つまり四捨五入。小数点以下の端数は、視聴者からわかりづらいとそっぽを向かれる可能性があるから、メディアはこの切り上げと切り下げを当たり前のようにする。

5 この切り上げが、よく問題になるヤラセ。ある村に雨乞いの儀式がある。ロケ隊はそれを撮りに行ったのだけど、今年は雨が多かつたからやらないという。でもそれじゃ困る。何をしに来たかわからない。だから村人に頼んで、雨乞いの儀式を特別にやってもらう。つまり再現してもらおう。だから撮影された雨乞いの儀式は、どんな衣装を着るかとかどんな場所でやるかとか参加する村人は誰かなどの情報に加えて、ロケ隊に頼まれてやったということも重要な情報となる。これもそのまま提示すればよいと僕は思うのだけど、ほとんどの場合、頼んだ過程を省略してしまう。これは切り下げだ。

10 この切り上げと切り下げで、テレビ番組は作られる。番組だけじゃない。^③注1ドキュメンタリー映画などといわれるジャンルや、新聞や雑誌の記事なども、基本的には変わらない。

15 これは料理に似ている。仕入れてきたジャガイモやニンジンやたまねぎを、まるごと煮る人はまずいない。というか美味しくない。皮を剥かなくてはならない。切り分けなければならない。たまねぎのヘタやジャガイモの芽は除かないと。面取りをする人もいるだろう。豚肉もロースの固まりのままでは食べづらい。切って脂身を削っておこう。次に油で炒める。塩コショウも忘れずに。チャツネやウコンやコリアンダーなどの調味料を加えれば、より本格的な味になる。鍋に水を入れて湯を沸かし炒めた材料を入れる。浮いた油や灰汁はすくって取り除いたほうが美味しい。ここで市販のカレールーを割り入れる。あらかじめ、た

まねぎとカレー粉と小麦粉を炒めておいて、本格的なカレーを作る人もいる。

④ こうしてカレーができる。皿にご飯を盛ってカレーをかける。できあがったカレーライスを食べながら、ジャガイモやたまねぎの元の形がないと怒る人はいないだろう。確かに素材はジャガイモやたまねぎやニンジンだけど、そのままでは料理にならない。

20 もちろんニュースの場合は、できるだけ素材を切り刻んだり調味料を使ったりしないほうがいい。でもテレビの場合は時間
が、そして新聞や雑誌の場合は文字数が、一定の量に限られている。素材をそのまま使っているのは皿からはみ出してしま^⑤う。だから調理をしながら、いかに素材の味を引き出すかが問題になる。でも中には、素材の味などにあまり関心を持たずに、調味料ばかりを使う記者やディレクターがいる。確かに刺激的でとりあえずは美味しいかもしれないけれど、でも素材の本当の味はどこにもない。そこにあるのは、みんながジャガイモやニンジンらしいと思う味なのだ。

25 「森さんはヤラセをやったことはありませんか？」と時おり訊ねられる。そんなとき僕は、その質問をした人が、どんな意味でヤラセという言葉を使ったのかを訊き返すようにしている。

事実がないことを捏造^{ねつぞう}する。これがヤラセだ。その多くには、みんなから注目されるとか評判になるとかの見返りがある。ただしここまで読んでくれたなら、その判定は実は簡単ではないことは、あなたもわかってくれると思う。事実は確かにある。でもその事実をそのまま皿に載せても食べづらい。というか皿に載らない。だからみんなが喜んで食べるように調理をする。切り刻む。余分だと思えば捨てる。これが演出だ。

ヤラセと演出のあいだには、とても曖昧^{あいまい}で微妙な領域がある。そんなに単純な問題じゃない。でも報道したりドキュメンタリーを撮ったりする側についてひとつだけ言えることは、自分が現場で感じとった真実は、絶対に曲げてはならないということだ。そして同時に、この真実はあくまでも自分の真実なのだと意識することも大切だ。同じ現場にいたとしても、感じることは人によって違う。

35

⑥ つまり胸を張らないこと。負い目を持つこと。

メディアや（注2）ジャーナリズムにおいては、これがとても重要だと僕は考える。自分は決して⑦な事実など伝えていない。自分が伝えられることは、結局のところは⑧な真実なのだ。そう自覚すること。そこから出発すること。だからこそ自分が現場で感じたことを安易に曲げたり変えたりすり替えたりしないこと。

40

たった一つの真実を追究します。

こんな台詞（せりふ）を口にするメディア関係者がもしいたら、あまりその人の言うことは信用しないほうがいい。確かに台詞としてはとても格好いい。でもこの人は決定的な間違いをおかしている。そして自分がその間違いをおかしていることに気づいていない。

45 真実はひとつじゃない。事実には確かに一つ。ここに誰かがいる。誰かが何かを言う。その言葉を聞いた誰かが何かをする。たとえばここまでは事実。でもこの事実も、どこから見ると全然違う。つまり視点。なぜなら事実には、限りなく多面体なのだから。

あなたのクラスの授業。カメラをどこに置くかで見えるものはまったく違う。先生の立っている場所にカメラを置く場合と、クラスの問題児の席のすぐ傍（そば）にカメラを置く場合とで、世界はまったく変わる。世界は無限に多面体だ。

50 ⑨動物のドキュメンタリーを例に挙げよう。アフリカのサバンナで、子どもを3匹産んだばかりの母ライオンがいる。ところがその年のアフリカは記録的な干ばつ（かんばつ）に襲（おそ）われていて、ライオンのエサである草食動物がとも少ない。だから母ライオンは満足に狩りをする事ができない。飢えている。痩（や）せ細（こ）ってお乳も出ない。子ライオンたちもぐったりと衰弱して、もうほとんど動けない。

このままでは家族全員が餓死（がし）してしまう。母ライオンは今日も、弱った足を引きずりながら狩りに出る。もしも今日も獲物を

発見できなければ、子供たちはみんな死んでしまうかもしれない。そのとき母ライオンは2匹のトムソングゼルを発見した。大きなほうは無理でも小さなほうならば、弱った自分の足でも捕まえることができるかもしれない。

母ライオンはじりじりと、2匹のトムソングゼルににじり寄ってゆく。その場面を観ながらあなたは、何を思うだろう。きつと手に汗握りながら、がんばれと思うはずだ。がんばってあのトムソングゼルを仕留めて、巣で待つ3匹の子ライオンにお乳を飲ませてやってくれ。命を救ってくれ。

60 ここで場面は変わる。今度は群れから離れてしまったトムソングゼルのドキュメンタリーだ。干ばつで草がほとんどない。母親と生まれたばかりのトムソングゼルは、サバンナを長くさまよいながら、必死に草を探し求める。やっと草を見つけた。2匹は無心に草を食べる。その時カメラのレンズが、遠くからじりじりと近づいてくる。痩せ細った雌ライオンの姿を捉える。その視線は明らかに、子供のトムソングゼルを狙っている。

この場面を観ながら、あなたはきっと、早く逃げろと思うはずだ。早く気がついてくれ。今なら間に合う。あの凶暴なライオンから逃げてくれ。

65 これが視点だ。どちらも嘘^{うそ}ではない。でも視点をどこに置くかで、世界はこれほどに違って見える。

物事にはいろんな側面がある。どこから見るかでまったく変わる。あなたは普段、父親や母親の言いつけをよく守る子供であるとすると、でも今日夕ご飯を食べながら、「最近あまり勉強していないんじゃない？」と母親に言われて、思わず口答えをしてしまったとする。このときの口答えの理由は何だろう。

70 ある人は、「あの子は最近お母さんが口うるさいと思っていらいらしていたんだよ」と言う。また別の人は、「自分ではやっているつもりだったから、お母さんはわかってないと思ったんだ」と言う。またもう一人の人は、「実は最近、自分でも確かに勉強時間が足りないかと思っていたので、つい反抗してしまったんだよ」と言う。「別の心配事があってそれが気になっていて、思わず口答えしてしまったのさ」と説明する人もいるかもしれない。

あなたの本当の心情は僕にはわからないけれど、でも少なくとも、どれかひとつだけが正解であとは全部間違っているということはないんじゃないかな。事件や現象は、いろんな要素が複雑にからみあってできている。どこから見るかで全然違う。

75 さまざまな角度の鏡を貼り合わせてできているミラーボールは、複雑な多面体によつて構成される事実と喩えることができる。でもこれを正確にありのままに伝えることなどできない。だからメディアは、どれか一点の視点から報道する。それは現場に行つた記者やディレクターにしてみれば、事実ではないけれど（自分の）真実なのだ。

視点を換えれば、また違う世界が現れる。視点は人それぞれで違う。だから本当は、もっといろんな角度からの視点をメディアは呈示すべきなのだ。いや、提示されるはずなのだ。

80 でも不思議なことに、ある事件や現象に対して、メディアの論調は横並びにとでも似てしまう。なぜならその視点が、最も視聴者や読者に支持されるからだ。

だからあなたに覚えてほしい。事実は限りない多面体であること。メディアが提供する断面は、あくまでもそのひとつでしかないということ。もしも自分が現場に行つたなら、全然違う世界が現れる可能性はとて高いということ。

（森達也^{もりたつや}『たったひとつの「真実」なんてない』「ちくまプリマー新書」より）

注 1ドキュメンタリー映画——記録映画。

2ジャーナリズム——新聞・雑誌・ラジオ・テレビなどにより、その時に起きている様々な問題の報道・解説・批評などを伝達する活動のこと。

問1 ——線部①「切り上げ」・②「切り下げ」とは具体的にどのようなことを指しますか。その答えとして最も適切なものを次のア～オの中から一つずつ選び、その記号を答えなさい。

ア たまに起こることを毎日起こるように勘違いすること。

イ 起こらなくても起こっても結果を同じにしてしまうこと。

ウ 実際に起こったことをなかつたことのように取り扱うこと。

エ 実際に起こらなかったことは起こらなかったと認めること。

オ 実際に起こらなかったことを起こったように作り上げること。

問2

——線部③「ドキュメンタリー映画などといわれるジャンルや、新聞や雑誌の記事なども、基本的には変わらない」とありますが、テレビ番組と基本的には変わらないのは、それぞれのメディアが何を指すからですか。その答えとして最も適切な言葉を本文中から六字で抜き出しなさい。

問3

——線部④「こうしてカレーができる」とありますが、カレーができるまでの描写は、報道における何をたどっていますか。その答えとして最も適切な漢字二字の熟語を本文中から抜き出しなさい。

問4

——線部⑤「素材をそのまま使っているは皿からはみ出してしまふ」とありますが、筆者は、このたとえを使って、メディアにおいてはどうすべきだと主張していますか。その説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア メディアにはそれぞれ特性があるので、その特性にあった情報の構成をするべきであるということ。

イ メディアの持つ容量は決まっているので、その容量に合わせて情報量を削減するべきであるということ。

ウ メディアには利用者の要望に答える義務があるので、利用者の要望を詳細に調査するべきであるということ。

エ メディアが報道したい情報量は無限なので、視聴者の利益を考え、なるべく多くの情報を報道するべきであるということ。

問5 ———線部⑥「つまり胸を張らないこと。負い目を持つこと」とありますが、こうあるべきだと筆者が主張するのは、報道に携わる人間がどのような考えを持ってしまいがちだからですか。その答えを「〜という考え」につながるように二十五字以内で説明しなさい。

問6 [7]・[8]に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを次のア〜エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア ⑦∥物質的 ⑧∥精神的 イ ⑦∥本能的 ⑧∥理論的
ウ ⑦∥意図的 ⑧∥偶発的 エ ⑦∥客観的 ⑧∥主観的

問7 ———線部⑨「動物のドキュメンタリーを例に挙げよう」とありますが、この具体例から筆者が伝えたかったことはどのようなことですか。その説明として最も適切なものを次のア〜エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 人間はその時々状況に左右されやすい動物であるということ。
イ 人間は視点によって事実を変えてしまうため真実を語る資格がないこと。
ウ 人間は視点を変えると正反対の真実にたどりつくことがあるということ。
エ 人間は偏った視点を持ちがちなのでなかなか正当な判断は下せないということ。

問8 ———線部⑩「このときの口答えの理由は何だろう」とありますが、この後に理由をいくつも挙げることによって筆者が伝えたかったことはどのようなことですか。その説明として最も適切なものを次のア〜エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア ある一つの現象は多くの現象によって生じるが、その過程は人にはなかなか見えてこないということ。
イ ある一つの現象は一つの要素によって生じるのではなく、様々な要素が複雑に絡み合って起きるということ。
ウ ある一つの現象は多くの要素によって生じるのではなく、ある決定的な一つの要素によって起きるということ。

エ ある一つの現象は一つの要素によって起きることも、多くの要素が絡み合うこともあるため、断定的なことは言えないということ。

問9

——線部⑩「ある事件や現象に対して、メディアの論調は横並びにとでも似てしまう」とありますが、このような報道のあり方に対して筆者が心配しているのはどのようなことですか。その答えとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア メディアは人々が理解しやすい情報に偏って情報を流しがちなため、人々は難易度の高い情報を読み解く能力を次第に失っていつてしまうということ。

イ メディアはあらゆる情報を多面的に視聴者に提供しているため、人々は情報の取捨選択に主体的に取り組まなければ世界は無駄な情報で溢れかえってしまうということ。

ウ メディアは視聴者や読者の知りたいような視点で報道しがちなため、人々は世界が多面体であることに気付かず、メディアが流す情報こそ全てだと信じてしまうということ。

エ メディアは他のメディアと同じ情報を流すことに価値をおいているため、人々はその情報が正しいかどうか確認する方法を持たず、メディアが流す情報を鵜呑みにしてしまうということ。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、本文中の表記は原文のままにしてあります。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字と数えること。

僕たちは今、グラウンドの端っこに立っていた。僕は制服姿で、下校するところだ。すぐ近くにある校門をくぐる手前で、北嶋に声をかけられたのだった。北嶋のほうはサッカー部の練習中なので、色褪せた青いユニフォームを着ている。背中についている番号は『11』。それは、かつて僕がつけていた番号だった。

僕が前・11番。

5

北嶋が現・11番。

周りの連中は、そんな僕たちの仲がいいことを不思議に思ってるみたいだった。実際、怪我のせいで引退するまで、僕は北嶋は普通の関係だった。会えば話すし、格別憎み合っているわけではないけれど、それなりにライバル意識があるというか。優越感と嫉妬が混じり合っていた。

優越感は僕のほう。

10

なぜって僕がレギュラーだったから。

嫉妬は北嶋のほう。

なぜって北嶋がサブだったから。

北嶋と本格的に友達になったのは、僕が引退してからだった。

15

原因は、母さんのわき見運転だった。

「ほらほら、健二君。あそこの店、新しくなったのよ。石釜いしがまを入れたら、パンの生地きじがずっとおいしくなったって——」
なんて感じでパン屋のことを説明していたら、前の車にぶつかっていた。

そんなに飛ばしてたわけじゃなかったもので、事故自体はたいしたことなかった。車のバンパーがへこんで、エアバッグが膨らふくらんで、母さんがそのバッグに顔を押し潰つぶされたくらい。大怪我をするような事故じゃない。

20

まあ、タイム③リングが悪かったんだ。

助手席に座っていた僕は、体を捻ひねって、後部座席に置いてあったスパイクを取ろうとしていた。手を伸ばしたちようどそのとき、衝撃が来た。左足をどこかに引っかけたまま、僕の体は大きくねじれ、膝ひざの中でバチンという音がした。あれはびっくりした。ほんとにほんとに大きな音が聞こえてきたんだ。

病院から貰もらった診断書には、こう書いてあった。

25

『左膝前ぜんじゆうじんたい十字靭帯じじんたい及び側副靭帯そくぶじんたい断裂』

足を動かすゴムみたいな組織が切れたってことだ。

サッカー選手がよくやる奴なので、僕はそれがどういう怪我なのかちゃんと知っていた。選手生命を終わらせるものだから、もちろんわかっていた。手術をして、ものすごく辛いリハビリをすれば、一年くらいでそこそこ動くようにはなるらしい。ただ高校でサッカーをやるのは、もう無理だった。リハビリが終わるころには卒業している。

30

僕はサッカーを諦あきらめた。

辛かったけど、しょうがない。

いつだったか、テレビでやっていた時代劇で、織田信長役のオッサンが、

「是非もなし！」^④
と叫んでいた。

35 明智光秀に襲われたときのことだ。天下を ⑤ 中におさめる寸前で殺されようとしてたのに、そう言ったのだ。
是非もなし。

僕流に訳すると、

「ごちゃごちゃ言ってもしかたない」
ってことだ。

40 僕の足もまあ、そういうことだった。悔しかったし、さすがにしばらくはいろんなことを恨んだけど、だからといって足が元通りになるわけじゃない。信長さんみたいに天下やら命やらを諦めるよりはずっとマシだった。

現実を、僕は受け入れた。

左の靴を履くとき、手を長く伸ばさなきゃいけないこと。よたよた歩いているから、小さな子供にも抜かれてしまうこと。雨が降る前夜に、左膝が痛み始めること。永遠に続くように思えるリハビリのこと。

45 そういうすべてを、僕は呑み込む^⑥ことにした。

むしろ、なかなか呑み込めなかったのは、周囲のほうだった。母さんは事故のことを今も引きずっている。僕の足がいかれてしまったのは自分のせいだと思ってるんだ。たまに変な宗教にはまって、わけのわからないお札を渡してきたりする。僕の膝がうまく曲がらなくなってしまうのと同じように、母さんの心はうまく動かなくなってしまうらしい。それでも僕の膝はいつか治る。スポーツは無理にしても、普通に曲げて歩くことはできるようになる。母さんの心は、そのころちゃんと動くようになってるんだろうか。

退部届を出したとき、顧問の先生は泣きそうな目で見つめてきた。

「わかった」

⑦ 先生はそう言って退部届を受け取ったけれど、全然わかっていなかった。練習中はいつも鬼のように怒鳴っているその声が、少し震えていた。

55

仲間だったサッカー部員たちも似たようなもので、ある者は僕を避けたし、ある者は必要以上に優しくなった。足を引きずって歩く僕は、大いに同情された。

これは誰にも言っていないことだけど、というか言えないことだけど、僕はそういうのがうざかった。頑張れよなんて言われると、本気でへこんだ。足がうまく動かないことよりも、リハビリの辛さよりも、人の感情のほうがかきつかったくらいだ。

ところが、だ。

60

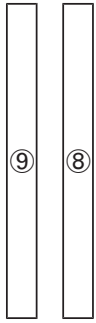
たったひとりだけ、まったく態度の変わらない人間がいた。それまでと同じように話しかけてきて、なんの含みもない笑みを浮かべる奴が。

それが北嶋だった。

「あのさ、足痛かった？」

65

あいつは退部届を出したばかりの僕に、そう尋ねてきたのだ。しかも、顔には笑みがあつた。最初、僕は呆れた。無神経にもほどがある。



なのに、なんでこんなにさわやかに笑ってるんだ。

70

もちろん僕はそんな感情は表に出さず、

「痛かったよ。今も動かすと痛いよ」

と答えた。

北嶋は傷を見てもいいかと尋ねてきた。いいと言うと、ズボンの裾^{すそ}を勝手にまくり上げ、手術痕^{むと}を見て、すげえと言った。

「マジですげえ傷だな。手術、痛かったか」

75

「麻酔してたから、そうでもなかったな。それより、麻酔のほうが進ったよ。背中に刺すんだけどさ、あれが痛かった。あと、麻酔が切れたあと」

「靱帯断裂だろ？」

「ああ」

「それって、(注1)小野伸二^{おのしんじ}がやったのと同じじゃん。かつこいいいな」

80

かつこいいい。本気で北嶋はそう言っていた。その怪我でサッカーを諦めた僕に。くらくらする頭で、僕は悟った。こいつは真正銘のバカだ。前からバカだバカだと思っていたけど、思っていた以上にバカなんだ。嫌みとか皮肉で、これほどさわやかに笑えるわけがない。人によっては怒るんだろうけど、僕はむしろ笑いたくなった。いいな、バカ^⑩って。そう思った。すげえよ、バカ^⑩って。

バカ^⑩って。

「いや、小野は側副靱帯だけだから。俺のほうが全然重いよ」

85

「へえ」

マジで感心してる。こっちの体の傷だとか心の傷だとかを心配する素振りにはまったくなかった。あんまりにもみんなと反応が

違うので驚いたが、話しているうちに僕は自分の心がずいぶん軽くなっていることに気づいた。みんなが同情やら気遣いやらを容赦なく^{ようしや}放り投げてくるたびに、僕はそれを受け止めるための堤防をいつの間にか作っていたのだ。そんな堤防は、北嶋にはま^{ようしや}つた^{ようしや}く必要がなかった。

以来、僕は北嶋とよく話す。

怪我をする前より、ずっとずっと仲良くなっていた。

（橋本紡^{はしもとつむぐ}『猫泥棒と木曜日のキッチン』〔新潮文庫〕より）

注 1 小野伸二——静岡県出身のプロサッカー選手。海外で活躍するとともに日本代表にも選ばれた。

問1 ——線部①「そんな僕たち」とありますが「そんな」は具体的にどのような関係を指しますか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 同じ背番号を獲得しようといつも競い合っていた「僕」と「北嶋」。

イ レギュラーとして活躍していた「僕」と、サブとして控えているしかなかった「北嶋」。

ウ 「北嶋」によって高校生活を台なしにされた「僕」と、「僕」を引退に追い込んだ「北嶋」。

エ 怪我をして部活を引退した「僕」と、「僕」が引退したおかげでレギュラーになれた「北嶋」。

問2 ——線部②「僕と北嶋は普通の関係だった」とありますが、この部分における「普通の関係」とはどのような「関係」ですか。

その説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 嫉妬^{しつと}と優越感とが混じり合いお互いに本音を出さないうわべだけの関係。

イ お互いの実力を認めず、それぞれの存在を無視しようとする冷たい関係。

ウ お互いに抱いている憎悪や嫉妬、優越感をうまく調整してお互いを認め合う対等な関係。

エ 部活内においてレギュラーとサブで、お互いをよきライバルと認識しあっている良好な関係。

問3 — 線部③とありますが、「タイミングが悪かった」せいで「僕」はどのような決断をしなくてはならなくなりましたか。その説明となる次の文の空欄X・Yを埋めて答えなさい。

怪我が ≧ X ≧ ようなものだったので、僕は ≧ Y ≧ 決断をした。

問4 — 線部④「是非もなし」という言葉に「僕」はどのような気持ちを重ね合わせたと言えますか。その説明として最も適切なものを次のア〜エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 人生に起きる様々な出来事に良いも悪いもなく、起きたことをそのまま受け入れるしかないという諦めに似た気持ち。

イ 人生に起きる様々な出来事は悪いことばかりが起きることを改めて認識し、そんな人生を恨めしく悲しく思う気持ち。

ウ 人生に起きる様々な出来事はどれも辛いことばかりだが、それを乗り越えて生きることが大切だという前向きな気持ち。

エ 人生に起きる様々な出来事に評価を与えることは良いことばかりではないと思い、そのまま保留にしておこうとするだけだった気持ち。

問5 ⑤ に当てはまる、体の一部分を指す漢字一字を答えなさい。

問6 — 線部⑥「呑み込む」とありますが、ここでの意味と最も近い意味で用いられている「呑み込む」の例を次のア〜エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 慌おわてて食べものを呑み込んだ。
イ こつを呑み込むのが早い。
ウ 怒りの言葉をぐつと呑み込む。
エ 五万人の聴衆を呑み込んだコンサート会場。

問7

——線部⑦「先生はそう言って退部届を受け取ったけれど、全然わかっていなかった」とありますが、「先生」がわかっていたのはどのようなことですか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 怪我をして一番辛いのは「僕」なのだから、先生からは優しい慰めの言葉の一つもかけてほしかった、ということ。
イ 怪我をして新しい生活を強いられている「僕」をこれまでとは違った視点で改めて評価してほしかった、ということ。
ウ 怪我について同情することは「僕」をますます惨めな気持ちにさせるため、いつものように怒鳴ってほしかった、ということ。

エ 怪我によって周囲から必要以上に気を遣われることがかえって「僕」を追い詰めていることを理解してほしかった、ということ。

問8

⑧・⑨・⑩に当てはまる一文を、次のア～エの中から一つずつ選び、その記号を答えなさい。

- ア それとも僕を嘲笑あざわらおうとしてるんだろうか。
イ 最初から僕をおとしいれるつもりでいたのはわかっていた。
ウ 他の部員より気まずくなりそうなものじゃないか。
エ しかも、僕が引退したことによって、北嶋はレギュラーの座を獲得した。

問9

——線部⑪「いいな、バカって。そう思った。すげえよ、バカって」における「僕」の気持ちの説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 周囲の人たちや母の思いに困惑していたが、彼らもまた、「僕」との付き合い方に悩んでいたことを北嶋を通して知り、前向きな気持ちになっている。

イ 周囲の人たちの思いを真剣に受け止めすぎたことを北嶋の言葉によって知り、他人に惑わされずマイペースで以前の自分を取り戻そうと明るい気持ちになっている。

ウ 周囲の人たちの同情や気遣いから自分を守るために頑^{かた}なになっていた「僕」であったが、北嶋の率直な人柄に触れ、心が軽くなるのと同時に、北嶋への親近感も増している。

エ 周囲の人たちの同情や気遣いを疎ましく思いながらも、その気持ちを表現できずにいたが、北嶋と話すことによって、自分の気持ちを率直に述べる大切さを知り、心が軽くなっている。

問10

この物語の特徴として当てはまるものを、次のア～オの中から二つ選び、その記号を答えなさい。

ア 短い文を多用することによって、テンポ良く物語が進行するような工夫がなされている。

イ 登場人物を多くすることによってそれぞれの人物の思いが複雑にからみあい、物語に深みを与えている。

ウ 高校生である「僕」の視点から語られることによって、物語が読者にとって親しみやすいものになっている。

エ 登場人物の性格を詳細に記述することによって、それぞれの人物の気持ちに読者が寄り添いやすくなっている。

オ 悲しいできごとをあえて軽いので描くことによって、「僕」の悲しみをより深く感じることができるようになっている。

三

あとの問いに答えなさい。

問1 次の①～⑤の文の——線部のカタカナを適切な漢字に改めなさい。

- ① アキサメ前線が南下する。
- ② これらを両立させるのはコンナンなことだ。
- ③ カンヨウ植物を育てる。
- ④ リトウに船で渡る。
- ⑤ 映画祭に作品をシュッテンする。

問2 次の例に従って、空欄に、上の矢印の直前の漢字と同じ読み方をする別の漢字一字を入れて熟語を作りながら、「読み方のしりとり」を完成させなさい（答えに読み仮名を書く必要はありません）。

例 教科 ↓ 《A》屋 ↓ 《B》病 ↓ 《C》写

答え

A || 直前の「科」と同じ読み方の「家」が入る

B || 直前の「屋」と同じ読み方の「臆」が入る

C || 直前の「病」と同じ読み方の「描」が入る

- ① 出演 ↓ 《A》庭 ↓ 《B》止 ↓ 《C》末
- ② 解説 ↓ 《A》営 ↓ 《B》雄 ↓ 《C》便

問3 次の①～④の文の——線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 学級委員長に担ぎ出される。
- ② 無駄なことに力を費やすのはやめよう。
- ③ 彼女のおしゃべりに閉口する。
- ④ 由緒正しい家柄だ。

